

令和 8 年度 第 1 回大和市文化芸術振興審議会 会議要旨

1. 日 時 令和 8 年 7 月 21 日(火)14:00
2. 出席状況 委 員 9 名(川染会長、明吉委員、井上委員、加藤委員、小須田委員、
小林委員、泉水委員、篠原委員、橋本委員)
事務局 6 名(文化振興課長、文化振興係 4 名、やまと芸術文化ホール 1 名)
3. 傍 聴 人 傍聴人 なし
4. 議 題
 - 1 開会
 - 2 審議事項
 - (1)文化芸術事業の令和7年度の主な取組について
 - (2)令和7年度やまと芸術文化ホールの運営状況について
 - 3 その他
 - (1)文化芸術顕彰候補者について
 - 4 閉会
5. 会議資料
 - 資料1 文化芸術事業の令和7年度の主な取組について
 - 資料2-1 やまと芸術文化ホールの運営状況について
 - 資料2-2 やまと芸術文化ホールの文化芸術事業について
 - 資料3 文化芸術顕彰候補者について

【会議要旨】

1 開会

2 審議事項

- (1)文化芸術事業の令和7年度の主な取組について

○市から、「文化芸術事業の令和7年度の主な取組について」を説明。

【意見交換】

○特になし

- (2)やまと芸術文化ホールの令和7年度運営状況について

○やまと芸術文化ホールから、「やまと芸術文化ホールの令和7年度運営状況について」を説明。

【意見交換】

① 学校プログラムの実施状況

委員 中学生対象の学校プログラム予定を 2 校から 3 校に増やしたとのことだが、要望数ほどの程度あったのか。

事務局 参加希望のあった学校は基本的にすべて受け入れている。日程の重複等による調整はあるものの、概ね希望に沿った対応を行っている。

② 来場者数目標の大幅超過とその要因

委員
事務局

来場者数が目標値を超えて、イベントによっては約 2 倍となった主な理由は何か。
主な要因は以下の 2 点。

1. 有名アーティスト出演以外の事業は集客予測が難しいため、目標設定を控えめにしていたこと。
2. 想定以上の集客効果があったこと。

委員

今回の実績・データを活かし、今後のさらなる集客向上につなげてほしい。

③ ターゲット層（高齢層と若年層）へのアプローチ

委員

80 代の来場増など高齢者施策の成果は評価できるが、将来を見据えた若年層へのアプローチが弱い印象を受ける。PR 面を含め、若年層に向けた取り組みが必要ではないか。

事務局

幅広い層の集客という方針に基づき対応したが、シニア層へ注力した印象が強くなってしまったかもしれない。一方、若年層への施策は今期、第 3 期の取組事例として、先月、幼稚園対象の「はじめてコンサート」を開催（一階席満席）。園児や引率教諭から非常に高い評価を得た。幼少期の文化体験の重要性を鑑み、年 1 回の継続開催を目指したい。

委員

「はじめてコンサート」への保護者の参加状況はどうか。

事務局

園児および引率の教員のみ参加対象とした。

委員

全国的に幼稚園児が減少し保育園児が増加している傾向を踏まえ、保育園も対象にするなど、より踏み込んだ対応が必要ではないか。

事務局

保育園児はより年齢が低く、安全管理面での課題を考慮する必要があるため難しい。

④ 子どもの文化体験と学校部活動・地域連携

委員

多くの児童生徒がシリウス（ホール）に親しみを持っている一方で、公立中学校には文化系の部活動が少ない。美術部なども発表の場（ギャラリー展示等）を設けてはどうか。

事務局

令和 8 年度の事業、スクールフェスティバルの参加募集において、美術部等の展示も予定している。しかし、音楽系は集まるものの、展示系（美術・写真等）の応募がない点が課題となっている。

委員

指導体制の課題や教員の負担などから応募に至っていない可能性が高い。生徒自身の意欲は高いと考えられる。

委員

中学生へのアンケートでも美術部は人気が高い。一方でシリウスは予約が難しいという意識から敬遠されがちであるため、ギャラリーの積極活用を進めてほしい。

事務局

現状、学校向けの貸出の増枠は年 1 回が限界に近く、追加対応には市とのルール見直しが必要。

事務局

部活動の地域移行や外部指導者（大学等）の活用など、面的なサポート体制への変化が進んでいる。個人活動の支援や底上げも含め検討していく。

- 委員 伝統文化事業との連携による広がりも期待できる。
- 委員 働き方改革に伴う休日活動の制限や、既存美術団体の高齢化などの過渡期にある。秦野市の「地域アートプロジェクト」のような、市・教育委員会・地域・団体が一体となった横断的連携事例も参考になる。
- 委員 ⑤ 中学生対象コンクール・発表の場の創設および文化の多様性
- 委員 シリウスで小中学生を対象とした美術コンクールの開催を検討してはどうか。音楽系と異なり、美術系ではコンクール文化がまだ定着していない現状がある。
- 委員 大和市の魅力を描く全国公募のコンクールもよいかもしれない。
- 委員 デジタル技術の普及など若年層を取り巻く「文化」の概念は広がっている。文系・理系の枠にとらわれず、新しい文化の形や若い世代の感性を柔軟に捉える視点が重要である。
- 委員 昭和音楽大学における芸術工学部の開設（令和 9 年度予定）など、音楽分野でもデジタル活用が進む一方、伝統音楽の衰退懸念など課題もある。
- 委員 大和市独自の特徴・歴史をテーマとした作品制作など、市の特色を押し出せる発表の場があると面白い。
- 委員 発表の場の創設に際しては、以下に留意すべき。
- ・部活動単位だけでなく、個人単位での応募も可能とすること。
 - ・開催時期（受験期の冬や、新旧直後の春の時期を避け、3 年生が参加しやすい時期とすること）。
 - ・立体作品や映像作品など多様な表現形式を募ること。
- 委員 開催時期としては、夏休みに制作し、9 月～10 月頃に展示・開催するスケジュールが適しているのではないかと。

3 その他

(1)文化芸術顕彰候補者について

○市から、「文化芸術顕彰候補者について」を説明。

— 大和市情報公開条例第7条第3号に該当するため非公開 —

4 閉会